



は なつ あさ ある晴れた夏の朝

こ で まり かいせいしゃ
小手鞠るい作 偕成社

一九四五年八月、日本に原子爆弾が投下された。

日系アメリカ人のメイは、十五歳の夏休みに『戦争と平和を考える』公開討論会に参加することになった。日本に対するアメリカの原爆投下の是非について、八人の高校生が、肯定派と否定派に分かれ議論を戦わせるのだ。

アメリカの高校生たちが、討論会

を通じて、それぞれの祖先の歴史に触れ、戦争の悲惨さや人種差別の問題など、広く深く平和について考えていく。臨場感のあるディベート形式で展開する物語。

